

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年3月27日現在

機関番号：37119
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22330059
 研究課題名（和文） 冷戦秩序の変容と同盟に関する総合的研究—冷戦終焉の視点からの考察
 研究課題名（英文） A Comprehensive Study of the Transformation of the Cold War and Alliances - A Perspective from the End of the Cold War
 研究代表者
 菅 英輝(KAN HIDEKI)
 西南女学院大学・人文学部・教授
 研究者番号：60047727

研究成果の概要（和文）：

冷戦終結後の世界をいまだに大きく規定している歴史としての冷戦と同盟に関する主要な問題を抽出し、それらを冷戦の終焉という視点から一次史料を使って考察することによって、冷戦史研究ならびに日本外交にとって有意な知見を提供することを目指した。第一に、冷戦期の秩序の構造や性格を実証的・歴史的に考察することによって、冷戦期と冷戦後の秩序の連続性と不連続性を解明し、冷戦後の秩序を理解するうえでも有益な知見を提供することができた。第二に、欧州とアジアにおける冷戦期の同盟関係を一次史料に基づき実証的に考察することによって、冷戦後の同盟、なかでも日米安保が抱えている諸問題を検証し、日本外交にとっての今日的意味を明らかにすることが出来た。第三に、同盟の文化的・社会的・思想的基盤に分析の焦点を合わせ、一次史料を基に実証的な検討を行うことによって、従来同盟研究で看過されてきた側面に光を当てることができたことは、冷戦史および同盟研究における本プロジェクト独自の貢献だと信じる。

研究成果の概要（英文）：

The project intended to make contribution not only to the study of the Cold War history based on primary sources but also to provide relevant and useful findings for better understanding of Japanese diplomacy by exploring and examining major problems concerning the Cold War and alliances, still the defining factors in understanding the post-Cold War world. First, by putting to empirical and historical examination the structure and nature of world politics during the Cold War period, the research tried to illuminate the continuity and discontinuity of the world order during and after the Cold War, thereby offering significant findings for understanding the existing world. Second, by examining Cold War alliance relationships both in Europe and Asia from a comparative perspective and through use of primary sources, the research was able to come up with relevant and useful findings for understanding both Cold War and post-Cold War alliances and problems, especially those of the US-Japan security treaty system and their implications for US-Japan relations and Japanese diplomacy. Third, by focusing our analysis on the cultural, social and ideological foundation of the alliances, largely neglected niches in the past alliance studies, we could shed light on unexplored aspects of the alliance relationships, thereby making unique contribution to the historical study of the Cold War as well as understanding alliances during and after the Cold War.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2011年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2012年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学、国際関係論

キーワード：外交史・国際関係史

1. 研究開始当初の背景

プロジェクトに応募した年は、冷戦終結後 20 周年、安保改定 50 周年を迎えたときであった。なかでも、日本では「緊密で対等な日米関係」を標榜する民主党政権が誕生し、鳩山首相は「日米同盟のあり方全般について、包括的なレビュー」を行うと述べるなど、新たな日米関係を模索するだけでなく、「東アジア共同体」の構築を旗印に、アジア重視姿勢を打ち出していた。他方で、中国のパワーの台頭と急速なアジア諸国の経済成長により、冷戦後の東アジアの国際関係は大きな変化の時期を迎えていた。このような流動する国際情勢の中にあって、歴史の峠に立って、戦後日本の東アジア諸国との関係を洗いなおす作業が求められていると考えた。そこで、一次史料にもとづく、冷戦と同盟に関する主要な諸問題を摘出し、それらを冷戦の終焉という視点から考察することによって、冷戦史研究に新たな貢献をなすと同時に、日本の外交にとって有意な知見を提供することができると考え、共同研究に取り組むこととした。

2. 研究の目的

以下の三つの課題を設定した。

(1) 実証的・歴史的アプローチに基づく冷戦秩序論を目指す。冷戦の終焉という視点から、冷戦秩序と冷戦後の秩序との連続性と不連続性を明らかにすることによって、冷戦の変容の意味を問い、冷戦後の世界をよりよく理解するための知見を提供する。

(2) 冷戦終焉後の日米安保や欧州の同盟関係の現状を視野に入れながら、冷戦の変容と同盟をめぐる諸問題を冷戦期にさかのぼって考察する。日米安保をはじめとするアジアの同盟に焦点を合わせ、欧州の同盟内政治と比較しながら考察することによって、日米安保が現在直面する課題と問題に取り組むさいに有意な知見を見出す。

(3) 冷戦期の最新の動向を踏まえ、同盟の文化的・社会的・思想的基盤といった同盟研究の盲点となっている諸相を考察し、冷戦史研究と同盟に関する独自の貢献を目指す。

3. 研究の方法

研究分担者のテーマに沿って、国際関係理論研究、実証的な歴史研究、比較研究の三つのアプローチを各自が採用したが、共通認識としては、最新の冷戦史研究を踏まえることに加えて、比較の視点を重視し、可能な限り一次史料を使った実証的な研究方法をとるようにした。冷戦史の最新の動向を研究に反映させるために、全員で The Cambridge History of the Cold War 全 3 巻を読破し、

議論を重ね、問題関心と分析枠組みの共有に務めた。

4. 研究成果

本プロジェクトで得た成果は以下の三点に要約できる。

(1) 秩序形成と変容

比較の視点を踏まえ、冷戦変容期の秩序の構造や性格を実証的・歴史的に考察することによって、冷戦期と冷戦後の秩序の連続性と不連続性を解明し、冷戦後の秩序を理解するうえでも有益な知見を提供することができた。

(2) 冷戦の変容と同盟内政治

欧州とアジアにおける冷戦変容期の同盟関係を、一次史料に基づき実証的に考察することによって、冷戦後の同盟、なかでも日米安保が抱えている諸問題を検証し、日本外交にとっての今日的意味を明らかにすることが出来た。

(3) 同盟と文化・社会変容

同盟の文化的・社会的・思想的基盤に分析の焦点を合わせ、一次史料を基に実証的な検討を行うことによって、従来同盟研究で看過されてきた側面に光を当てることができたことは、冷戦史および同盟研究における本プロジェクト独自の貢献だと信じる。

以上三つの領域における個別研究に基づく論文を執筆したことが重要な成果であるが、なかでも欧州とアジアの同盟を比較考察し、さらに同盟の文化的・社会的・イデオロギーの基盤を解明する作業を行ったことで、冷戦後の日米安保体制の持続性や日本外交が直面する対米自立への取り組みに必要な課題を明らかにしたことは特筆に値する。これに加えて、総論としては、冷戦の終焉の視点から、冷戦史の時期区分論を展開したことも注目に値する。この作業は、冷戦とは何だったのかを考えるさいの歴史的視座を提供すると同時に、冷戦期と冷戦後の秩序の連続性と不連続性を理解するうえでも不可欠である。従来の冷戦史研究においては、日本だけでなく、欧米においても、この課題に本格的に取り組んだ研究はなく、この点での成果は本プロジェクトの顕著な貢献である。また、総括としては、冷戦を歴史的グローバル・システムとして把握するという視点を提供することにより、「冷戦」の包括的な再定義を試みており、この点も従来の冷戦史研究における、新たな貢献であると思料する。

なお、現在、成果を出版すべく、出版社と協議を行っており、本年度中に刊行を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

1 MATSUDA, Takeshi, "Cultural Cold War in Japan: An Impact of William A. Williams' Tragedy of American Diplomacy on American Studies" 京都外国語大学『研究論叢』LXXX、2013年1月、査読無、pp. 15-43.

2 豊下 檜彦 「「領土問題」の戦略的解決と日本外交の「第三の道」を求めて」『現代思想』2012年12月号、vol. 40-17、査読無、pp. 40-58.

3 豊下 檜彦 「『尖閣購入』問題の陥穽」『世界』2012年8月号、833号、査読無、pp. 41-49.

4 森 聡 「1960年代後半の国際金融危機とベトナム戦争—ジョンソン政権期の対応策」『アメリカ史研究』35号、2012年、査読有、pp. 59-79.

5 鄭敬娥 「1960年代のアジアにおける地域主義と韓国—アジア・太平洋協議会 (ASPAC) を中心に」『大分大学教育福祉科学部研究紀要』第34巻第2号、2012年、査読無、pp. 127-141.

6 KAN, Hideki, "The Nixon Administration's Initiative for U. S. -China Rapprochement and Its Impact on U. S. -Japan Relations, 1969-1974," 『法政研究』78号3巻、2012年、査読有、pp. 1028-990.

7 豊下 檜彦 「日本外交の『第三の道』に関する覚書 (上)」『法と政治』62巻4号、2012年、査読無、pp. 1-28.

8 藤本 博 「アメリカにおけるヴェトナム反戦運動とその遺産—ヴェトナム帰還兵・『アメリカの戦争犯罪』・国際的連関」油井大三郎編『越境する1960年代—米国、日本、西欧の国際比較』彩流社、2012年、pp. 71-92 (総頁数 394).

9 菅英輝 「東アジアにおける冷戦」木畑 洋一編 岩波講座 東アジア近現代通史7 『アジア諸戦争の時代 1945~1960年』岩波書店、2011年、pp. 45-70 (総頁数 387).

10 菅英輝 「9. 11後の米国外交の歴史的位相」『現代の理論』27巻、2011年、査読無、pp. 56-67.

11 AKITA, Shigeru, "The British Empire and the International Order of Asia in the 1930 and 1950s," *Yongkuk Yonku (The Korean Journal of British Studies)* No. 26, 2011, 査読有、pp. 69-91.

12 AKITA, Shigeru, "The British Empire as

'Imperial Structural Power' within an Asian International Order," Toyin Faola et al eds., *Africa, Empire and Globalization—Essays in Honor of A. G. Hopkins*, 2011, pp. 417-431 (総頁 682).

13 秋田 茂 「帝国主義の時代」、木畑 洋一 他編『近代イギリスの歴史—16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2011年、pp. 107-133 (総頁数 371).

14 秋田 茂 「『長期の18世紀』から『東アジアの経済的再興』へ」『待兼山論叢』45号、2011年、査読無、pp. 1-26.

15 都丸 潤子 「東アジア国際関係の転機としてのバンドン会議」木畑洋一編 岩波講座 東アジア近現代通史7 『アジア諸戦争の時代 1945-1960年』岩波書店、2011年、pp. 274-296 (総頁数 387).

16 初瀬 龍平 「『戦後総決算』の一考察—中曽根時代とその後—」『京女法学』第1号、2011年、査読無、pp. 27-49.

17 初瀬 龍平 「戦後政治の総決算」『岩波講座 東アジア現代通史』第9巻、2011年、査読無、pp. 358-378.

18 倉科 一希 「米欧同盟と核兵器拡散問題—ケネディ政権の対西独政策」『国際政治』163号、2011年、査読有、pp. 55-67.

19 齋藤 嘉臣 「東欧の共産主義と英国の文化的年、査読無、pp. 15-78.

20 齋藤 嘉臣 「現実主義の英ソ文化交流史」『金沢法学』第53巻2号、2011年、査読無、pp. 77-152.

21 豊下 檜彦 「『尖閣問題』と安保条約」『世界』2011年1月号、査読無、pp. 37-48.

22 豊下 檜彦 「安保条約と『脅威論』の展開」『立命館平和研究』第12号、2011年、査読無、pp. 1-10.

23 中島 琢磨 「沖縄返還交渉の『第二ラウンド』—1969年6月~7月—」『龍谷法学』第44巻1号、2011年、査読無、pp. 1-50.

24 中島 琢磨 「史料が語る日本外交② 下田大使宛東郷局長書簡 沖縄返還交渉における外務省の覚悟」『外交』第8巻、2011年、査読無、pp. 82-85.

25 中島 琢磨 「佐藤栄作と若泉敬一『二元外交』の二つの側面—」『田布施町郷土館研究紀要』第12号、2011年、査読無、pp. 1-8.

26 菅英輝 「『核密約』と日米安保体制」『年報・日本現代史—60年安保改定とは何だったのか』15巻、2010年、査読有、pp. 1-38.

27 菅英輝 「The Rise of China and US-Japan and US-ROK Alliances Developments Compared,」『アジア太平洋論叢』第19号、2010年、査読有、pp. 3-50.

28 AKITA, Shigeru, “World history and the Emergence of Global History in Japan,” *Chinese Studies in History*, Vol. 43, No. 3, 2010, 査読有、pp. 84-96.

29 秋田茂・西村雄志 序「銀の流通からみた世界史の構築」、デニス・フリン『グローバル化と銀』山川出版社、2010年、pp. 5-28 (総頁数 163)。

30 田中孝彦 第1章「国際関係研究における歴史」山本武彦編『国際関係論のニューフロンティア』成文堂、2010年、pp. 18-51 (総頁数 393)。

[学会発表] (計 31 件)

1 菅英輝「アメリカの冷戦政策とコロンボ・プラン—1950年代アジアにおける地域協力の模索」2013年3月3日、冷戦史ワークショップ、早稲田大学現代中国研究所。

2 AKITA Shigeru, “Creating Global History from Asian Perspectives,” Workshop on Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History,” Indian Ocean Center, McGill University, Montreal, Canada, 2013/2/17.

3 KAN, Hideki, “The Johnson Administration’s Policy toward Indonesia and the Transformation of the Cold War Order in Asia, 1964-1968” International Workshop on Reconsidering Empires and Decolonization, The School of International Relations, Nanjing University, Nanjing, International Workshop on Reconsidering Empires and Decolonization, The School of International Relations, Nanjing University, Nanjing, China, 2012/12/21.

4 AKITA, Shigeru, “Economic Diplomacy of Jawaharlal Nehru Administration after Decolonization of South Asia,” International Workshop on Reconsidering Empires and Decolonization, The School of International Relations, Nanjing University, Nanjing, China, 2012/12/21.

5 AKITA, Shigeru, Special Lecture: “Re-presenting Asia on the Global Stage: The Rise of Global History Study in East Asia,” The School of International Relations, Nanjing University, Nanjing, China, 2012/12/21.

6 菅英輝「ケナンの外交観と20世紀アメリカ外交史の系譜」2012年12月8日、北九州アメリカ史学会、北九州市立大学。

7 藤本博「アメリカ史研究の現在を考える—外交史の視点から」日本アメリカ史学会

第25回例会、2012年12月1日、東京大学駒場キャンパス。

8 AKITA, Shigeru, “The Rise of Indian Economic Nationalism and Collaborators at the turn of the 19-20th centuries—N. Y. K. Bombay Line and the British Empire,” International Academic Conference on “Science, Knowledge and the “Art of Governance” of the Periphery in Colonial and Continantal Empires’, Institute of World History of Russian Academy of Sciences, Russian State University of the Humanities, French-Russian Center of Social Sciences and Humanities, and German Historical Institute in Moscow, Moscow, Russia, 2012/11/14.

9 秋田茂「「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ」社会思想史学会第37回大会・セッションK: グローバルヒストリーと思想史の位置—G. アリギ『北京のアダム・スミス』を手がかりに一、一橋大学、2012/10/28.

10 秋田茂「グローバル経済史研究からのコメント」第12回日韓・韓日歴史家会議、東京・ホテルアジア会館、2012/10/26-28 (Proceedings, pp. 43-47)

11 森 聡「アメリカのアジア太平洋シフトの実相」日本国際政治学会、2012年10月20日、名古屋国際会議場。

12 秋田茂「18世紀のアジア世界：南アジア産綿織物と世界史」神奈川県高等学校教科研究会・社会科部会歴史分科会・2012年度研究会、栄光学園、2012/8/8.

13 AKITA, Shigeru, “Economic Diplomacy of Jawaharlal Nehru Administration after Decolonization of South Asia,” Panel: “The Historical Origins of ‘East Asian Resurgence’: Economic Nationalism, Developmentalism and the International Order of Asia, 1950s-1970s”, The XVIIth World Economic History Congress, University of Stellenbosch, South Africa, 2012/7/10.

14 AKITA, Shigeru, “Osaka University and Creating Global History from Asian Perspectives”, Special Lecture on Global History, Department of English, Gwanjyu Univesity, Korea, 2012/4/30

15 松村史紀「中ソ同盟の誕生(1950年)—東西の同盟比較から考える—」東洋文庫研究部超域アジア研究部門現代中国研究班・現代中国資料室共催「1950年代中国研究会」2012年3月17日、東洋文庫新本館。

16 KAN, Hideki, “The Making of ‘an American Empire’ and U.S. Responses to Decolonization in the Early Cold War Years,” 上海国際ワークショップ（華東師範大学—早稲田大学「アジアにおける冷戦：歴史と影響」学術研究会）2012年3月3日、華東師範大学 歴史学部冷戦国際史研究センター（中国）。

17 菅英輝「ニクソン政権による米中和解イニシアティブとその日米関係への影響、1969-1974年」日本政治外交史研究会、2012年2月18日、関西学院大学梅田キャンパス。

18 齋藤嘉臣「冷戦とジャズ：アメリカニゼーションをめぐる戦後史の一断面」明治学院大学国際学部附属研究所「音と国際政治史」シンポジウム、2012年2月11日、明治学院大学。

19 菅英輝「『アメリカ帝国』の形成と脱植民地化への対応」新学術領域研究第6回国際シンポジウム、北海道大学スラブ研究センター2011年度冬期国際シンポジウム「近現代帝国の比較：世界秩序変動の中での帝国統治と脱植民地化」2012年1月19日～20日、北海道大学スラブ研究センター。

20 AKITA, Shigeru, “Economic Diplomacy of Jawaharlal Nehru Administration after Decolonization of South Asia,” 新学術領域研究第6回国際シンポジウム、北海道大学スラブ研究センター2011年度冬期国際シンポジウム「近現代帝国の比較：世界秩序変動の中での帝国統治と脱植民地化」2012年1月19日～20日、北海道大学スラブ研究センター。

21 松田武「日米関係の基層とアメリカのソフト・パワー外交」長寿文化フォーラム（招待講演）2012年1月20日、神戸市勤労会館。

22 藤本博、ラウンドテーブル「ベトナム戦争をめぐる西側同盟関係：1961-1973年」（パネリストとしてニクソン政権のベトナム政策について報告）、日本国際政治学会、2011年11月13日、つくば国際会議場。

23 倉科一希「米欧関係の変容と西独への核兵器拡散問題」日本国際政治学会、2011年11月12日、つくば国際会議場。

24 菅英輝「冷戦の時期区分について—冷戦秩序と冷戦後の秩序」科研「冷戦秩序の変容と同盟に関する総合的研究 - 冷戦終焉の視点からの考察」2011年度第三回研究会、2011年11月5日～6日、京都外国語大学。

25 AKITA, Shigeru, “Re-Presenting Asia on the Global Stage: The Rise of Global Historical Studies in East Asia,” The 3rd Global History Globally Conference, 2011

年10月、Humboldt-Universität zu Berlin (Germany) .

26 AKITA, Shigeru, “The British Empire and the International Order of Asia in the 1930s and 1950s,” The 20th Anniversary Congress of Korean Society of British History: British Empire: Memory and Legacy, 2011年6月、University of Cheongju (Korea) .

27 森 聡「ドイツ再統一とアメリカ外交」日本アメリカ学会（招待講演）2011年6月5日、東京大学。

28 AKITA, Shigeru, “The Aid-India Consortium and the International Order of Asia, 1958-1965,” Panel: ‘Historical Origins of “East Asian Resurgence” : Economic nationalism, developmentalism and the international Order of Asia, c.1950s-1970s,’ The Third European Congress on World and Global History (ENIUGH), 2011年4月15日、London School of Economics (United Kingdom) .

29 AKITA, Shigeru, “Gentlemanly Capitalism and Global History from Asian Perspectives,” Conference in Honor of Professor A.G. Hopkins, 2011年4月9日、University of Texas, Austin (U.S.A.)

30 松村史紀「東アジア地域の立体像：近代と現代を考える」早稲田大学現代中国研究所・次世代研究会、2010年8月31日、早稲田大学現代中国研究所。

31 菅英輝「米国の冷戦政策とコロンボ・プラン—1950年代アジアにおける地域協力の模索」社会経済史学会、2010年6月20日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス。

32 KAN, Hideki, “The Nixon Administration’s Initiative for U.S.-China rapprochement and its Impact on U.S.-Japan Relations, 1969-1974,” “American Culture, American Democracy” 2010 OAH (Organization of American Historians) 2010年4月5～7日、Hilton, Washington D.C.

〔図書〕（計10件）

- 1 秋田茂・桃木至朗編著『帝国とグローバルヒストリー』大阪大学出版会、2013年3月刊行予定。
- 2 松村史紀他編『二〇世紀満洲歴史事典』吉川弘文館、2012年、総頁数812。
- 3 豊下楯彦『「尖閣問題」とは何か』岩波現代文庫、2012年、総頁数290。
- 4 秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアか

ら考える』中央公論新社、2012年、総頁数288。

5 中島琢磨『高度成長と沖縄返還』吉川弘文館、2012年、総頁数308。

6 初瀬龍平編著『国際関係論入門-思考の作法-』法律文化社、2012年、総頁数320。

初瀬龍平 序章、第1～11章、13章。

菅英輝 第12章「米国とパワー・ポリテイクス」pp.154-171。

7 中島敏次郎 著／中島琢磨 他編『外交証言録 日米安保・沖縄返還・天安門事件』岩波書店、2012年、総頁数272。

8 菅英輝（編著）『東アジアの歴史摩擦と和解可能性 冷戦後の国際秩序と歴史認識をめぐる諸問題』凱風社、2011年、総頁数545。

（菅英輝「総論 冷戦後東アジア国際関係の構造変動と歴史和解—パワー、ナショナルリズム、市民社会、歴史摩擦の交錯」pp.12-44。

秋田茂「南アジアにおける脱植民地化と歴史認識—インドのコモンウェルス残留」pp.346-367。

鄭敬娥「歴史認識をめぐる日韓摩擦の構造とその変容」pp.178-203。

初瀬龍平「戦争責任論から戦後秩序論へ—東京裁判論の視点転換へ」pp.46-71。

藤本博「『ソソミ』の記憶とトランスナショナルな『和解・平和』」pp.388-410)

9 松村史紀（共編著）『NIHU 現代中国早稲田大学拠点 WICCS 研究シリーズ5 東アジア地域の立体像と中国』早稲田大学現代中国研究所、2011年、総頁数193。

10 秋田茂・近藤和彦編『イギリス史研究入門』山川出版社、2010年、pp.272-293（総頁数408）。

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.seinan-jo.ac.jp/university/ccount/kan/framepage5.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菅 英輝(KAN HIDEKI)

西南女学院大学・人文学部・教授

研究者番号：60047727

(2) 研究分担者

都丸潤子(TOMARU JUNKO)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：00252750

倉科一希(KURASHINA ITSUKI)

広島市立大学・国際学部・准教授

研究者番号：00404856

秋田 茂(AKITA SHIGERU)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10175789

田中孝彦(TANAKA TAKAHIKO)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：10236599

齋藤嘉臣(SAITO YOSHIOMI)

金沢大学・法学系・准教授

研究者番号：10402950

松田 武(MATSUDA TAKESHI)

京都外国語学部・学長

研究者番号：20093495

中島琢磨(NAKASHIMA TAKUMA)

龍谷大学・法学部・准教授

研究者番号：20380660

鄭 敬娥(JEONG KYONG-AH)

大分大学・教育福祉科学部・准教授

研究者番号：30363542

初瀬龍平(HATSUSE RYUHEI)

京都女子大学・法学部・客員教授

研究者番号：40047709

森 聡(MORI SATORU)

法政大学・法学部・教授

研究者番号：6046729

藤本 博(FUJIMOTO HIROSHI)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号：70165421

松村史紀(MATSUMURA FUMINORI)

宇都宮大学・国際学部・講師

研究者番号：80409573

豊下檜彦(Toyoshita NaraHiko)

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：90025156

(3) 連携研究者